



# NIKAHO HIGH SCHOOL

## 秋田県立仁賀保高等学校 開校50周年記念連載〈第1回〉

昭和52年（1977）4月12日、仁賀保町町民体育館で秋田県立仁賀保高等学校の第1回入学式が行われ、第1期生となる277人が旧平沢中学校を仮校舎として高校生活をスタートさせました。そして、同年11月10日に象潟町字下浜山の現校舎に移転してから、来年、開校50周年を迎える同校は令和9年（2027）11月9日に記念式典を開催します。

本市唯一の高校である仁賀保高等学校が開校50周年を迎えることを記念し、「秋田県立仁賀保高等学校開校50周年記念連載」として、今号から5回シリーズで同校の歴史を振り返っていきます。

- 1976**  
昭和51. 12.22  
12.24  
秋田県立仁賀保高等学校の設置を秋田県議会が議決。秋田県教育委員会の定める日までは、仁賀保町平沢字画書面37番地1（旧平沢中学校）に設置。普通科6学級276人募集。
- 1977**  
昭和52. 4. 1  
4.12  
5. 9  
11.10  
初代校長に畑沢 潤一氏が着任。仁賀保町町民体育館で第1回入学式。入学者277人。仁賀保高等学校PTA発足。現校舎（象潟町字下浜山3番地3）へ移転。
- 1978**  
昭和53. 6. 6  
1979  
昭和54. 4.26  
9.20  
9.29  
校歌制定。（作者：中山 健氏 作曲：高野 豊昭氏）  
陸上競技場および野球場完成。  
水泳プール完成。  
全日本吹奏楽コンクール東北大会（Bクラス）金賞受賞。
- 1980**  
昭和55. 2.29  
3. 7  
6  
10. 4  
11.12  
同窓会設立総会。  
第1回卒業式（卒業生258人）。  
陸上競技400m 土門 好子氏 東北大会出場。  
全日本吹奏楽コンクール東北大会（Aクラス）金賞受賞。  
象潟町字下浜山1号線（学校前通学路）完成。
- 1981**  
昭和56. 3.31  
4. 1  
8.26  
畑沢 潤一校長、県高校教育課長に転出。  
2代目校長に佐々木 稔氏が着任。  
第1回全校鳥海登山実施。
- 1982**  
昭和57. 10.11  
10.31  
11.21  
12. 8  
第1回東北高等学校選抜ソフトボール大会準優勝。  
全日本吹奏楽コンクール全国大会（Aクラス）金賞受賞。  
全国高等学校放送コンテスト映像部門最優秀賞受賞。  
吹奏楽秋田県芸術文化賞受賞。
- 1983**  
昭和58. 6.15  
12.23  
全国高等学校放送コンテストテレビ部門入賞。  
校訓を「自立・克己・友愛」に定める。
- 1984**  
昭和59. 3.31  
4. 1  
佐々木 稔校長、大曲高等学校長に転出。  
3代目校長に山岡 雄平氏が着任。
- 1985**  
昭和60. 3. 7  
9.28  
第6回卒業式（卒業生189人）。  
全日本吹奏楽コンクール東北大会（Aクラス）金賞受賞。
- 1986**  
昭和61. 3.31  
4. 1  
6  
8.11  
山岡 雄平校長、県教育センター所長に転出。  
4代目校長に菊池 栄悦氏が着任。  
陸上競技100m、200m 今野 和則氏 東北大会出場。  
山形県インターハイにおいて山岳部が優秀賞受賞。
- 1987**  
昭和62. 1. 9  
2.27  
3.31  
4. 1  
11. 7  
日本学生科学賞 入賞3等受賞。  
山岳部が秋田県スポーツ栄光賞受賞。  
菊池 栄悦校長、能代農業高等学校長に転出。  
5代目校長に加藤 雄悦氏が着任。  
創立10周年記念式典。

## ユーモアは最強の武器である

「ユーモアは最強の武器である」という本を読みました。ユーモアの優位性を紹介した本です。

人は笑うことによって脳内ホルモンが分泌され、気持ちが悪くなったり、ストレスが和らいだり、人への信頼感が高まったり、やる気が出たりします。しかもそれは相手に対してだけでなく、自分の行動にも表れてきます。

日本の組織の多くは「真面目であること」を大切にしています。もちろん真面目であることは大切です。ただ、その真面目さが人々を窮屈にしているのも確かです。この傾向は大企業や歴史ある企業に多く見られ、官公庁などはその典型と言われています。

■アップルやグーグル、ピクサーは、ユーモアを大切にすることで大きく成長してきた企業と言われています。

世界初の全編CGアニメ「トイ・ストーリー」の大成功で一気に世界的なアニメ制作会社となったピクサーは、周囲を明るく元気にする陽気さと遊び心に満ちあふれた組織文化を持ちあわせていることで有名です。夜中に社内ミニゴルフ大会やスクーター競争を始めたり、ドレスダウン（普段着）の日を設け、その日は社員がコスプレ衣装を身にまといながら仕事をしたりします。それらは決して中途半端なものでなく、完成度の高い「本気の遊び」です。

だからと言って、ピクサーは生産性を

犠牲にしてはいません。むしろ、ピクサーは業界一勤勉で生産性の高い会社と言われています。「生産性の高いクリエイティブなチームを作るには陽気さと遊び心が不可欠である」という経営思想が実践されているのです。

### ■ユーモアあふれる組織

「本来、日本人はユーモアのある楽しい民族であり、幕末から明治初期にかけての日本人は好奇心旺盛でひっきりなしに笑い転げていた」と言われています。いまの日本の多くの組織が堅苦しいのは、「長く存在しつづける組織はヒエラルキー構造が固まり硬直化してしまう」という特性に囚われてしまっているのも原因の一つだと思います。

もちろん仕事に対して真面目かつ真摯に向き合う姿勢は大切です。それは働くうえで絶対条件です。言いたいのは、真面目かつ真摯であることの先に、創造力豊かで、生産性の高い組織になるためにもっとできることがあるのではないかと考えてみてください。

■ユーモアとは違うけれど  
私が市長になってすぐに感じたのは「市役所ってシリアスとしているな」と感じた。最近も、ある若手職員から「シリアスとした職場はストレスを感じます。来庁者も小声で話したりしています」と無音

の空間の息苦しさが伝えられました。

職員には職務専念義務があり、勤務中は職務に集中しなければなりません。職員がおしゃべりに終始し、来庁者への応対がおろそかになるなんてことは論外です。ただ、だからと言って一切の談笑が許されないというのは違うと思います。実際、私自身、シーンとした空間はいたたまれません。「潤滑油としての雑談」「リフレッシュのための談笑」はあるべきです。とは言え、なかなか談笑はしにくいでしょう。ならば、それに代わる簡単な方法を考えてみるのも一つです。

私は度々「庁舎内にBGMを流してはどうか」と提案してきました。部門によってはすでに実践しています。昨年末、象潟庁舎1階で2週間のBGMトライアルが実施されました。来庁された方にアンケートを取ったところ、回答していただいた方全員が音楽が流れている方が良いと答えていました。職員もおおむねBGMを好意的に捉えているようでした。中には職場環境が変わることに違和感を覚える人もいるかもしれませんが、ですが、明るい雰囲気づくり、相談しやすい空間づくりに向けた何らかの取組みを検討することに意義はあると私は思います。



にかほ市長 市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧いただけます。

